

# 常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年4月6日(火)

## ◇ 今日、この日に…

桜階段の満開のソメイヨシノのもと、新たに8名の新入生を迎え、児童総数49名で令和3年度常磐東小学校が動き出した。🎉 入学。🎉 進級。



年度初日に感じるものは、修了式から十数日しか経っていないにもかかわらず、一回りどころか幾回りも大きく見える子供の成長である。

2週間程度で体が急激に大きくなるものでもなく、学年が一つ繰り上がる「進級」が児童の胸を張らせ、進級に係る新年度に向けた子供のやる気、期待といった精神的な前向きさが身体を大きく見せるのである。期待に満ちあふれた子供たちのために、職員一同、力を尽くし、校歌にあるように「正しく鍛える」支えとなることをお約束したい。

担任を離れてしばらく経つが、今でもはっきりと身体に沁みつき、明確に思い出せる感覚がある。

何度担任を経験しても、初日の感覚は特別だ。期待に胸を膨らませる子供に負けないぐらいの胸の高鳴りを覚えながらこの日を迎える。かといって不安がないわけでもないが、子供たちと顔を合わせたとたんとその不安は微塵となって消え去るから不思議だ。そして、やる気が倍増し、体の力がみなぎってくる。

この理由の一つに「区切り」「節目」がある。

卒業式や修了式、学校教育には区切りがある。万全な、完璧な一年などは教師も児童にもないだろうが、記憶の隅に残る後悔や反省、失敗は、「区切り」を経ることによって、次なる目標と期待、猛烈なやる気に姿を変えるのだ。そして、マイナスが明確にプラスに姿を変える日が、「節目」の今日、年度初日。だからこそ、担任も子供たちも、今日の、今の気持ちが大切なのである。

今の気持ちをもち続けていくことを子供たちと担任に願い、さらに高められるよう支えていくことが「正しく鍛える」につながっていくと信じる。